



コラボで いこう!

(株)フジタクリエイション

沖縄産にこだわり生産し 世界に通用するメーカーへ

地域資源活用

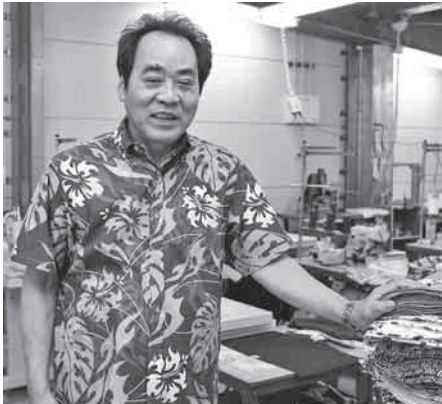
独立行政法人 中小企業基盤整備機構 広報統括室広報課

「沖縄らしさを沖縄でつくる。どこもやっていないことだから挑戦してみたかった」と(株)フジタクリエイション(沖縄県うるま市)の高里豊吉社長は、オリジナル製品の企画・製造を始めた経緯を語る。やるからには沖縄発の世界的なテキスタイルメーカーにまで上りつめる。これを目標に掲げ、沖縄の伝統的な模様や独特な色使いを現代風にアレンジした、かりゆしウェア、ハンカチ、ストールなどを自社で一貫生産している。

一九八四年に寝具卸として創業。メーカーから届く商品を見て、「ここを工夫すれば売れるのに」という思いを抱くことが多くあった。提案しても実現することはほとんどなく、そのもどかしさなども加わり、自ら製造に携わる道を選んだという。

「価格以上の価値」を 求め続ける

最初に手掛けたのはTシャツのプリント。スクリーン印刷設備を導入し、生産販売を始めたが、量産品であるTシャツ類は



かりゆしを着た高里豊吉社長

低コストでなければ太刀打ちできない。

「この時に価格競争の厳しさを知り、品質と価値の追求こそが重要なのだ、ということを感じ知らされました」と壁にぶつかったときの辛さを語る。

現在、Tシャツなど量販品は、十年前に立ち上げた中国江蘇省にある工場で生産しているが、来年からは沖縄での生産に戻す計画。独自の生産技術を駆使するので、かつての二の舞にはならないと強調する。

ただ、沖縄で生産することで売れるわけではない。決め手は商品の良しあしである。といっても、商品が良いだけで売れるわけでもない。安く販売しても

大手との価格競争には勝てない。どうすればいいのか。

必要なのは「価格以上に価値ある商品」を提供すること。それは顧客の満足度にあると高里社長は言い切る。そのために必要になるのは、オリジナルブランドの立ち上げだった。

二〇〇九年に「KUKURU」(くくる＝沖縄の方言で「心」の意味)のブランドを立ち上げた。すべて自社のデザイナーによるオリジナル商品で、那覇市の目抜き通りである国際通りの専門店など六店舗を構え、自社工場で生産した高品質のかりゆしウェア、てぬぐい、雑貨類を販売する。このほかインターネットサイトでも全売上高(約五億円)の五%を販売。三年後には一〇%まで高めるのが目標だ。

企業データ

本社	沖縄県うるま市字州崎 12-28 ☎098-938-2323 http://www.kukuru-okinawa.com/
業種	テキスタイル商品の製造・販売
創業	1984年
設立	1999年1月
資本金	3000万円
従業員数	47名(アルバイト含む)

プリント技術を苦勞して確立

高里社長がこだわるのは、プリントから縫製までをすべて自社工場で完結すること。この技術をつかむまで容易ではなかった。生地の前処理、プリント後の水洗いなどいくつもの工程が必要になり、「京都に向き染色の勉強をしました。それぞれは分業体制になっているほど、職人の技が必要なことを私は自社だけでやろうとした。最初はうまくできずに悩みましたが、ひとつずつ解決することで、乗り越えることができました」という。

インクジェットプリンターを使いプリントを始めたのは十年前。当時、技術が確立したばかりで冒険でもあったが、色数に制限がほとんどなく、デザインの再現性が高い特徴を重視した。ただ、生地に直接プリントしてもうまくいかな。生地に糊をコーティングすることで、厚みや濃さを出すことに成功した。洗いにも問題があった。沖繩の水はミネラル分の多い硬水で

適さない。そこで軟水に変える装置を導入し、最適な温度を求めて何度も試行錯誤し、納得のいく洗いができるようになった。こうしてプリント技術を完成させるまでに二年を費やし、売れる商品を作ることができるようになったという。

「お客様が納得し売れる商品を作ることができましたが、これで完璧とは言い切れませんが、満足せず、さらに高品質を目指したい」と熱意を語る。

地域資源活用事業認定で中小機構が経営支援

高里社長と中小機構との関わりは、インクジェットプリンターを導入し本格的なテキスタイル生産体制を構築したころに遡る。会社経営のイロハを勉強する必要を感じた高

里社長は、熊本県人吉市にある中小企業大学校人吉校の「経営管理者養成コース」で半年間にわたり、経営マネジメントを学んだ。「那覇と熊本の間は大変

でしたが、それ以上の成果を得ました。多くの気づきがあり、実践的な内容は今でも役立つています」という。

この縁もあって中小機構のアドバイザーと関わり、国の地域産業資源活用事業を申請。二〇一〇年に認定を受けた。これに合わせて、中小機構は経営、EC（電子商取引）の専門家などを派遣し販路拡大などを支援した。客観的な経営へのアドバイスが着実に実を結び、今年四月にオープンした沖繩最大大型商業施設にも店舗を開設した。

また、地域貢献・地域経済の活性化に貢献している同社の事業が評価され、今年三月に発表された「がんばる中小企業・小規模事業者三〇〇社」（主催・中小企業庁）に選定されている。



生地に微妙なバランスで糊をつけるプリントの前処理作業。試行錯誤の中でつかんだ技術だ

目標は世界に通用するテキスタイルメーカー

高里社長が取り組む事業展開の特徴は、プリントから縫製、販売までを一貫して行うことにある。川上・川下の分業が普通だったアパレル業界でも、最近ではこのようなSPA（製造小売）が増えてきたが、沖繩ではほかにはない。

「コンパクトに生産すること。工場内を無駄なく使い、倉庫まで備える」ことで、固定費を圧縮する合理的な手法をとっている。一貫生産、販売にこだわる理由は、下請にならないためだという。企業として成長を目指すのは当然だが、そこにあるのは事業規模の拡大だけの追求ではない。沖繩発のテキスタイルメーカーとして、県内から全国への展開を図り、さらに世界で通用するメーカーになることを目標とする。規模は後からついてくるはずだ。

●お問い合わせ先
中小企業基盤整備機構
広報統括室広報課

☎ 03-5470-1515